

い。*Acrossocheilus formosanus* (REGAN) を今年 10 月廬山の上で全長 30~150 mm のものを 30 尾餘り採集した。同地では是を斑魚と稱してゐる。小形のものは黄色で 7 個の細い、個體により不規則で、又必ずしも左右相稱でない鞍状紋がある。成長するに従つて體の背面は黒綠色となり鞍状紋は淡くなり、體側に 1 本の黒い縦線が現はれ、遂に鞍状紋は消え縦線のみとなる。中國から同屬のものが更に 2 種報告されてゐるが、是等 3 種間の區別は困難である。上記の體色の變化等には從來觸れた研究は少く、將來更に研究される必要がある魚である。*Channa asiatica* (LINNAEUS) は中支の市場に現はれて來る事は殆ど無い。今年 6 月鎮江で生きたもの數尾を得た。同地では是を七星魚と稱してゐる。體の地色は緑がかった暗灰色で、體側の黒色の横紋に鱗の白點が美しく調和してゐる。ヤキインハゼ *Chaeturichthys stigmatias* RICHARDSON の鱗は落易く、良い標本を見る機會が無かつたが一昨年舟山島沈家門で生きたもの數尾を得る事が出來た。二體の背部は淡黄綠色で稍灰色を帯び、鱗に灰色の點がある。脊鰭の後部と尾鰭の後半は黒い。

### 珍奇なる二種の水棲貧毛環蟲 (豫報)

山口 英 二 HIDEJI YAMAGUCHI (函館)

茲に報告する二種類は、本邦に於ける水棲貧毛環蟲科の調査中發見されたもので共に Haplotaxidae に編入せらるべき未記載種である。第一種は生殖巢及び受精囊の數と位置、剛毛の配列並びに喉囊の存在等から *Haplotaxis* 屬のものと認められるが、體の全長に亘つて背側剛毛を缺き且前體部一定範圍の體節には巨大な剛毛の存在すること、又剛毛は凡て Enchytraeidae に於ける如く nodulus を缺くことは類例のない事である。第二種は生殖巢及び受精囊の數と位置及び剛毛の配列等から Haplotaxidae に編入せらるべきであるが、唯各剛毛束を形成する二本の剛毛の形はこの科の標徴に一致しない。即ち一本の剛毛は細い鈎状で nodulus を有せず、且剛毛先端は分叉してゐないが、他の一本は明かな nodulus を持つ稍太く且長い鈎状剛毛で、その先端は明かに二又してゐる。剛毛先端の分叉はこの科では今まで報告なく、又對をなす二本の剛毛の形狀が上記の如き特異なる剛毛束はこの科は勿論他にも殆んど類例が知られてゐない。かかる剛毛の特徴並びに受精囊の位置、背側剛毛束に密接した特殊の細胞の存在、體腔中に突出した多數の巨大單細胞腺の存在等から、この種類は新屬を代表せしむべきと思はれる。

扱て貧毛環蟲類諸科の系統發生に就いては MICHAELSEN, STEPHENSON その他の所論があるが、異論を生ずるのは、主として Haplotaxidae 及び Lumbriculidae の諸科との類縁關係に對する意見の相違に基くものゝ様である。今茲に報告する珍奇なる二種類を Haplotaxidae に編入することが正當であるならば當然この科の類縁關係を再吟味するの必要を生じ、ひいては、Lumbriculidae に對する最近の知見と共に、系統發生に關する所論の検討に對して根據を與へるものと思はれる。併しこれに關する論議は今後の研究をまつて發表する豫定である。

### 黒ナマコ (*Holothuria vagabunda*) の體內毒素の分布に就て

山内 年彦 TOSHIHIKO YAMANOUCHI (京都)

本邦産各種ナマコの體中に含有される毒素は魚類並びに哺乳類を死滅せしむるが、この事及び黒ナマコの毒素の化學的性質等は既に他の場所<sup>1)</sup>に於て發表したから、こゝでは觸れない。今黒ナマコの各種器官

1) 昭和 17 年 6 月大阪に於て化學研究所 16 回講演會 (日下印刷中)。

を秤量し水で煮沸し抽出液をつくり之に魚類を入れ死亡時間を観察した。各種魚類を用ひたがその一例として耕メダカでは組織 1 に對し 50 倍の水で抽出したもので體壁 (29.5), 腸毛細管+水肺 (39.1 分), CUVIER 氏器官 (43 分) の死亡時間を示し縦走筋, 腸管では死亡せず, 血液は煮沸し多量の水で稀釋したもので 70.8 分で死亡する。他の一例では海魚に對してはナマコの組織に 1 倍量の海水を加へ煮沸, 濾過し更にこの抽出液を 30 倍の海水で稀釋 (組織 1 に 300 倍の海水の割) した。グレ(メヂナ)は體壁(26分), 腸毛細管+水肺 (35 分), CUVIER 氏器官 (40 分), 縦走筋 (85 分), 腸管 (155 分) の死亡時間を示した。血液は 100 cc の海水に煮沸血液 12 cc の割に加へたもので 35 分で死亡した。その他の魚でも大同小異, 且つナマコの雌雄の生殖巣も致死毒を有する事を知つた。以上の結果により上記毒素はナマコの體中であらゆる器官に含有され且つ含有量も大體に上記の記述順になつてゐる。組織の含水量は大體 80-90 % の間で各種器官の毒素含有量の差は遙かに含水量の差を超過してゐる。この毒素は何かナマコの體中で物質代謝の上で役割を演じてゐる如く思考される。

問 古い書物などに海參製造に使つた煮汁を海に撒いて魚を殺すことが書いてあり, 沖縄地方其他でも普通食用種 (*Stichopus japonicus*) でない數種を使つた煮汁で同じことをやつてゐる。食用種でも澤山の個體から採つて煮詰められた場合にはそれ程の毒性を現すと考へて宜しきや?

(大 島 廣)

答 食用種の *Stichopus japonicus* 中にも毒物質は含有さるゝも他の食用にならぬものに比し僅少である。大量のナマコの煮沸液よりは化學的に分離する事ができる。黒ナマコでは有毒物質は體壁の生量に對し約 0.1 % 位含有さる (化學的には不純で鹽を含有する形で)。 (山 内 年 彦)

## 鯉, 鮒, 金魚並に其等の雜種の消化器官に就て

松 井 佳 一 YOSHICHI MATSUI (明石)

鯉は無胃類に屬し肝臓を有することは古くから知られて居た。鵜飼哲 (1926) はこれを組織學的に確かめ且つ脾臓内にも肝臓が分布して居ることを報告して居る。有馬宗雄, 久保田重孝兩氏 (1931) は鯉はこれと同様であるが鮒, 金魚にては肝臓組織が肝臓及脾臓内に分布して居ないことを報告した。末廣恭雄氏 (1943) は解剖により鯉は肝臓を有するが鮒は肝臓と脾臓が分離して居る。而して腸管の旋回の模様は鯉と鮒とは大に異なることを報告した。

著者は兵庫縣水産試験場山田養魚場で飼育中の鯉×鮒の二年魚, 鯉×金魚(リウキン)の四年魚, 鮒二年魚, 鯉二年魚, 金魚(ワキン)三年魚を使用し Bouin 液で固定しパラフィン切片として DELAFIELD Haematoxylin 及 Eosin 重複染色した。尙ほ解剖にはランチュウ, オランダシシガシラ, リウキン等を使用して消化器官の相異を観察した。

鯉の消化器官は帶黄色又は淡褐色の肝臓が不規則に分葉し大體帶狀をなし腸管の間を充填して腹腔の上部から下腹部に及び膽嚢は前部で肝臓に埋まつて居り, 脾臓は暗赤色をして帶狀をして居る。鮒, 金魚では腸の旋回の模様は異なるが外觀は鯉に頗る類似して居て肝臓と脾臓とは區別が困難である。鯉と鮒, 鯉と金魚の雜種では外觀は腸管の旋回等も鯉と同様であつて, 鯉の特性が顯性である。而して鯉, 鮒, 金魚の組織學的の所見は有馬久保田兩氏の結果と大體一致して居るが雜種は兩種共に肝臓内に肝臓組織が廣く分布して肝臓をなし脾臓内にも同様分布して居て全く鯉と同様である。

問 ヘパトパンクレアスの導管はどうなるか。分れて入るか一緒に入るか。 (高 視 俊 一)

動物學雜誌, 第 55 卷, 第 2 號, 昭和 18 年 (1943)